

3 本時の学習 (5/8)

(1) 目標 運動の順番やきまりを守り、友だちと仲よくゲームを行い、勝敗を素直に認めることができる。【関心・意欲・態度】

チームに合った作戦を見付けることができる。【思考・判断】

ボールをねらった方向に投げたり、守ったりしながら、ゲームをすることができる。【技能】

(2) 準備 ふりかえり (作戦) ボード、学習カード、的当ての箱、児童机、的、ピブス

(3) 展開

※目標は全観点書きますが、本時、特に評価する項目は太字で記載してください。

児童のつぶやき

言葉かけ・教え合い

核となる言葉かけ

学びの段階	学習活動と予想される児童の反応	○指導上の留意点・支援 ★評価 (方法)
ひらく	1 用具の準備 2 わくわくの的当てパーク 3 本時のめあての確認 チームに合った作戦を見付けよう。	○指導上の留意点・支援 ★評価 (方法) 短時間に安全に準備ができるようにする。 ○投げる、捕るときポイントを押さえるようにする。(体の向き、手の振り、視線、足の向きなど)
できる	4 活動① (スキルアップゲーム) ・パスをつないでシュートゲーム (守りなし) ・パスをつないでシュートゲーム (3対1) うまく捕れないな。 どのあたりにバウンドさせればよいかな。 守りがうまくかわせないな。 体の正面で捕ろう。 今まで学習した名人になるポイント思い出そう。 ※「児童のつぶやき」は、想定されるつまづきや困り感、次なる活動 (めあて) への意欲等を書く。「言葉かけ・教え合い」は、それを克服するような文言を書く。 ※「技能的な言葉かけ」は、しっかりと検討・吟味したいものです。 すぐ敵にとられてしまうな。 どんなパスを投げれば、パスがつながりやすいかな。	○「パスをつないでシュートゲーム (守りなし)」では、声を出すことパスを受ける体の向きを中心に声をかけ、ゲームへのスキルを高めるようにする。 ○「パスをつないでシュートゲーム (3対1)」では、守りを意識した攻めの動きを中心に声をかけ、ゲームへのスキルを高めるようにする。 ※核となる言葉かけは、その時間の核となる学習内容に照らし合わせ、児童の思考力を促し、言語活動に結びつくような言葉を検討・吟味してください。
チャレンジする	※「ひらく」「ふりかえり」の間の学習過程には、「習得」を中心とした学習を、「わかる」「できる」で記載し、「活用」「探究」を中心とした学習を「ためす」「いかす」「チャレンジする」で記載します。 ①名シューター (4対3) アップタイム (作戦ボード) 見えなかったらパスしよう。 人がいないところに動いて捕ってみよう。 パスがなかなかつかないな。 パスをどこにつなげると得点になるかな。 守りの場合の作戦をどうしようかな。 得点していない人がいるよ。 攻めと守りの作戦を考えてみよう。	○パワーアップタイムの時には、作戦ボードを使って、人やボールの動きを考えるなど、焦点を絞って話し合うようにする。 ★チームに合った作戦を考え、見付けている、【思】 ○振り返りボードを使って、「楽しさ」「めあて」を振り返るとともに、チームとしての活動を振り返り、次時の作戦につなげる。 ※指導案中には、技能のポイントとなるようなイラストをどんどん使ってください。「わたしたちの体育」のものが適切だと思います。無論、他に適当なものあれば使っていただいて結構です。
ふりかえる	6 学習のまとめ ・ふりかえりボード	○もっと攻撃の作戦を増やす方法はないかなど、次時につなげる言葉かけをして学習に対する意欲を高める。